子どもの生きる力をはぐくむ道徳教育
― 学　校　全　体　で　取　り　組　む　道　徳　教　育 ―

上尾市立東小学校　教諭　洞派　千里

１　はじめに－研修題目設定の理由－

「生きる力」は豊かな人間性を重要な要素とし、それを支えるのは道徳教育である。今回の学習指導要領の改訂では、道徳教育をより一層充実することがうたわれている。そして、道徳の時間の役割が、学校における道徳教育の「要」と明示された。

しかし、誰もが「道徳教育は大切」と思いながらも学校現場での温度差は大きい。今回の改訂においては、道徳教育推進教師が位置付けられ学校の教育活動全体で取り組む道徳教育の充実が図られている。道徳教育推進教師をリーダーとして組織的に道徳教育に取り組むことによって、教師一人ひとりが力を発揮できるようにしていくことが求められる。

組織として取り組むには、それを構成している教師の協力が不可欠である。教師と一言で言ってもそれぞれの価値観、教師観に違いがある。しかし、その違いを個性と捉え、持ち味を良さとしながら、教師がお互いに協力しながら道徳教育に取り組んでいくことが大切である。そこで同じ目標に向け活動を続けるためにも道徳教育推進教師の役割が重要になってくる。組織がまとまり、一人ひとりの教師が要となる道徳の時間、そして道徳教育を充実させることで、子どもたちの道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えが深まり道徳的実践力が養われていくと考える。

以上のことから、「子どもたちの生きる力をはぐくむ道徳教育」を本研究主題と設定した。

２　研究の概要（章の構成）

1　今日の道徳教育とその課題
2　組織で取り組む道徳教育の大切さ
3　組織として取り組むための道徳教育推進教師の役割
4　道徳的価値の自覚と生き方について考えることができる効果的な指導
5　成果と課題

本研究では、初めに「生きる力」の自分としてのとらえ方を示し、道徳教育の今日までの経緯や子どもを取り巻く環境の変化、そして課題を把握していく。そして、そこから生まれる教師間、学校間の道徳教育における温度差の原因を考察していく。次に、道徳教育の必要性、重要性を押さえ、道徳教育推進教師が配置された経緯や現状、全国での事例ついて概括していく。その上で、学校全体で道徳教育に取り組むために、道徳教育推進教師の具体的な取り組みを提案、実践し、その有用性をまとめていく。また、現場に生かせるような資料を作成していく。

この研究を通し、子どもたちの人格の完成の基盤となる「生きる力」をはぐくむための道徳教育を学校全体で推進していくために、道徳教育推進教師を中心に、教師一人一人が自分の力を発揮しながらも組織的に取り組む手立てを探求していきたいと考えた。

３　研究について～道徳教育推進教師の役割～

（１）　道徳教育推進教師の役割を具体的に考える

今回の改訂で、「道徳教育推進教師」について明記され、推進体制の一層の充実が求められている。しかし、実際には道徳教育推進教師になった教師自身「何から手をつけていいのか」「どう職員に声かけをしていったらいいのか」という思いを抱えている。また、他の教師も毎時間の道徳の時間、そして全教育活動でどう道徳教育を推進して行けばいいのか、やりたくてもできないという人が少なくない。そこで、道徳教育推進教師の具体的な活動を探り実践へとつなげることによって、「生きる力」の基盤となる道徳教育の充実が図られると考える。

（２）意識調査の実施により具体的な手立てを考える（道徳教育推進教師の役割を探るために）

ヒアリング（紙面による自由記述）

○対象は上尾市立東小学校教員（職歴は臨時採用から30年以上まで、20名）
○質問事項（下記５問）

Ｑ１道徳の時間で困っていること、悩んでいること、知りたいこと
Ｑ２教育活動全体で行う道徳教育ときいて
Ｑ３この質問項目の他に、自分が力を入れたい教科・領域
Ｑ４自分が受けたり、授業を行ったりした中で心に残った資料や技法など
Ｑ５道徳教育推進教師の役割を知っていますか？

○考察と具体策
上記の質問から、教師の道徳教育に対する意欲や熱意がたくさん感じられた。しかし、
① 「道徳教育が今、必要だということがわかっているが、どうしていいのかわからない。」道徳教育が生きる力を支える基盤となることを意識していないということがわかった。そこで、指導計画の充実を図るためにポイントを押さえた指導計画の提示と工夫を行う。
② 組織を構成する教師は、自分が得意であったり、勉強したいと思っていたりする教科・領域がそれぞれ違ってあることがわかった。そこで、個々が自分の得意分野から道徳教育との関連を意識できるように、他教科・領域等の特質に応じて適切に指導できるような授業の提案を行うっていく。
③ 道徳の時間を見る機会も限られ「基本的なことが知りたい」「わからないことを具体的に教えて欲しい」という意見を受けて道徳の時間を充実させるための授業提案を行う。
④ 道徳の時間だけでなく、授業を展開する中で学級経営との関連や環境面などの悩みも多く回答された。そこで、現場で役立つ資料の作成を行う。
① ～④の点について道徳教育推進教師としてどう対応できるか研究してく。

４　研究の具体的な手立てと実践

（１） 指導計画を充実させる

① 全体計画をはじめ、たくさんの計画が画餅にならないようポイントを押さえる。
② 見て使えるもの、見方がわかりやすいものとする。
③ どんな時に使用するのか明確にし、日常に使えるものとする。

道徳教育の全体計画・道徳教育の全体計画の別葉・道徳教育の年間計画・学級における指導計画を①～③の３点についてポイントをしぼってまとめ、見直しをしていった。

上記４つの計画はそれぞれに大切なものであり、組織を意識し、各学級に具体化していくことが大切である。しかし、日常的に使用する機会は多くない。そこで、日常的に意識できるよう具体的な計画案を作成した。

◎教師向けの通信（具体的計画）（添付資料）
・道徳の内容項目については、誰にでも理解できるように内容項目は数字ではなく、言葉とした。
・学年会等で使えるよう、月の半ばの配布とし２ヶ月分の配布が望ましい。学年だよりや学級通信、学習予定の作成にも役立つ。・生徒指導との関連づけ、教師の共通理解を図りながら、道徳の価値についても意識を高められるよう
にした。行事への参加の仕方や教師の関わり方（指導のポイント）を記入していく。

（２）各教師が他教科・領域等の特質に応じて適切に指導できるような授業の提案

① 担任の力の入れたい教科・領域等を聞き、道徳教育との関連を考える授業の提案
② 道徳の時間の公開、ワークシートや日記から教科とのつながり、視点の明確にした
③ 道徳の関わりを考えた教科・領域等の指導案の作成と授業後の協議会設定
④ 授業を参観、授業後の協議の設定、事後指導（以下、体育の例をあげる）

<table>
<tr><td colspan="3">5年4組　担任　7年目　体育主任</td></tr>
<tr><td>担任意向</td><td colspan="2">本年度、初の体育主任になり学校全体の体育を考えるのと同時に自分の学級の体育をしっかりやっていきたい。道徳との関連を大切にしなければいけないのはわかっているが、どのようにしていけばいいのか具体的な方法を知りたい。</td></tr>
<tr><td></td><td>道徳の時間</td><td>体育「サッカー」</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td>主題名　男女関係なくねらい　お互いのよさを認め信頼し合いながら、男女が仲良く助け合おうとする心情を深める。
資料名　言葉のおくり物（学研　みんなのどうとく５年）
【体育との関連】
体育では、集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、きまりを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。５年生のこの時期、男女を意識していく時期となる子も多い。そこでこの資料を事前に取り扱い体育で培う「協力する力」をさらに高めていきたい。</td><td>単元名　サッカー(ボール運動　ゴール型ゲーム　　)
5　道徳との関わり
体育科の目標である「明るく楽しい生活を営む態度の育成」は道徳の基本である。また「サッカー」で目指すチームで励まし合いながら協力し合っていくことや、苦手意識を克服するために工夫しながらも根気強く努力することは、道徳における男女の協力、不撓不屈に通ずるものである。道徳の時間の時前、事後に効果的に取り組むことが重要と考える。
また、集団でのゲームなど運動することを通して，粘り強くやり遂げる，きまりを守る，集団に参加し協力する，といった態度が養われる。また，健康・安全についての理解は，生活習慣の大切さを知り，自分の生活を見直すことにつながるものである。
6　単元の目標
（1）・互いに協力し合いながら、練習したり、ゲームをしたりすることができる。
・チーム内で互いに協力し、励まし合ったり作戦を立てたりしながら活動することができる。
＜関心・意欲・態度＞
（2）・練習方法を選んだり、簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。
＜思考・判断＞
（3）・状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技術を身につけ、ボールを操作することができる。
・攻守のポジションの動きを理解し、攻撃する技術や防御の仕方を身に付けてゲームすることができる。
＜技能＞</td></tr>
<tr><td>協議より</td><td colspan="2">・運動量、技能面、規範についてだけでなく、道徳的な視点を意識したことで、声掛けが多くなった。
・大きな行事での感想だけでなく、体育の授業の感想を日記のテーマにしたり、ワークシートで協力面や教え合いを入れたりしたことは、負担にはならないし、子どものよさを知ることにもなったのでよかったと思う。
・体育だけでなの関わりから学ぶことの大きさを感意識（ルールの徹底）だけでなく人との出会いで、いろいろな声かけができた。
・体育を行う上で運動量やじた。
・今回のように、他の教科・領域についても道徳教育との関連を考えていき考えていきたい</td></tr>
</table>

（３）道徳の時間の充実にむけての授業の提案

① 担任の悩みを聞く。
② 授業の提案（悩みの糸口となるような）
③ 授業後の協議会を設定する

<table>
<tr><td colspan="3">主題名　だれにたいしても【２－（２）思いやり・親切】
ねらい　相手の立場を考え、誰に対してもあたたかく接しようとする態度を養う。
資料名　くずれ落ちた段ボール箱</td></tr>
<tr><td></td><td>５年２組</td><td>５年３組</td></tr>
<tr><td>悩み</td><td>・切り返しができず、教師との１対１になってしまう。
・発問が途切れ途切れになってしまう。</td><td>・発言する子が限られてしまう。
・表面的な発言が多く見られ、自分のこととして考えることができない。</td></tr>
<tr><td>工夫</td><td>・場面絵の提示の仕方（黒板の貼るものを少なく）・他の子の意見を踏まえた発言を促す</td><td>・心情スケールを使い自分の考えを明確にして考えていく。・小グループでの話し合い</td></tr>
<tr><td>板書</td><td>
・時系列に板書
・貼るものを少なく
・チョークでポイントを押さえる
・葛藤場面をわかりやすく上下に表す。</td><td>
・心情スケールに自分の名前のマグネットを置き意志決定で立場を明確にする。</td></tr>
</table>

協議より	・発言を受けて、「〇〇さんはこう言っているけど、みんなはどう？」と全員に呼びかけたり、次の子どもを指名したりすると、１対１にならないと思った。一度発表すると自信となるようだ。 ・板書絵を貼りながら、次の発問へとつなげる方法もあると思った。 ・葛藤場面での子どもたちの考えの違いが上下に板書することでよくわかった。 ・いつも活躍しない子どもも道徳の時間だと意見を言えるのでもっと活躍させたいと思った。	・客観的にクラスを見ていて子どもたちの性格がよく出ていると思った。 ・自分の考えを明確にすることで、一人ひとりがしっかりと考えをもたなければいけないという姿勢が見られた。小グループでは意見が活発にでていた。 ・他の子の意見に流され、迷う子もいる実態がよくわかった。事後指導に生かしたい。 ・心情スケールや心情円盤など道具を使用することで子どもたちの考えが見えると思った。

（４） 現場に役立つ資料の作成（学級担任が自己評価できるチェックシートの提案）

① 道徳教育を進める上で実際に必要とされるもの。

② 手軽に使用できるように③ 誰にでもわかるもの。

事例：学級経営チェックシート

・人に今さら聞けないことや疑問に思っていたことが解決できる。

・ポイントを整理し、日頃気をつけたい点を項目別にチェックできる（点数方式）

・チェックだけでなく、アドバイスシートも作成することで、その日から取り組める。

５　おわりにー研究のまとめと今後の課題―

上記の研究から諸計画については、「身近に手にとってもらえるもの」道徳教育を深く勉強している人だけでなく、誰にとっても視点が捉えやすく、わかりやすいものにしていくことが道徳の推進に影響が大きいことがわかった。そのことを念頭に置きながら、道徳教育推進教師が具体的に一人ひとりの教師を意識し、アドバイスをしたり、授業実践を行ったりしていくことが大切なことも明確になった。なぜなら、道徳教育推進教師は、管理職からのトップダウンとは違い、ミドルリーダーという立場であるから、共に考える姿勢で接することができる。実際の授業を通して子どもたちのリーダー性や落ち着きがない子への配慮の方法など、道徳の時間のねらいとする価値に迫ることだけでなく、日常の人間関係の構築や子どもたちの活躍の場のもち方まで話題とすることができることも明らかになった。

道徳教育を通し、教師同士のコミュニケーションも協議をする中でとることができ、お互いを知ることやアドバイスをしあうことで、組織をより強固にすることもできると考えた。人は、もともとは学習することが好きで、お互いに機能し合う集団の一員になると、すばらしい力を発揮するものである。道徳教育についても、一人ひとりに任されたクラスや分掌の中で充実させたいと思っても、「術をしらない」「何からやるのかが、わからない」というジレンマを抱えている人は多いが、一人ひとりの教師に具体的なアドバイスや現場で役立つ資料を作成し、使用してもらうことで、全教師が道徳教育を意識して、学校全体で取り組むことができるようになることも期待できる。

課題としては、来年度、現場で研究したことを実践していく中で諸計画や教師向けの通信の使い安さの追及をするとともに、よりよい授業が提案できるように、さらなる研鑽に努めたい。また、道徳教育推進教師は、幅広い視野をもつことも必要に感じる。特別なことではないが、他教科・領域等に関することを含め、学ぶ意欲を忘れず、組織全体に広げられるようにしていくことも課題である。

そして、一人ひとりの教師が道徳教育を意識しながら、子どもも教師も道徳の時間を要とする道徳教育について楽しみながら、取り組めるよう研修していく所存である。

一つ一つのことが、子どもたちの生きる力をはぐくむことにつながり、子どもも教師も生き生きと活躍できる学校という組織となっていくのだと信じ努力していきたいと思う。